

優秀賞

住宅の部

建築主：鹿内 健・鹿内 真沙子
設計：Sデザインファーム株式会社
施工：株式会社ニッター住宅
所在地：船橋市

～「増やす豊かさ」と「減らす豊かさ」を謳歌する住宅～

増減の家



外観

住宅を設計する場合、その土地がもつ文脈や住まい手のライフスタイルを理解し、空間や機能がどのように寄り添うかを考えることが重要である。

「増減の家」の敷地は、神社の参道に面した建築家の自邸である。この敷地において、緑豊かな神社の参道空間や日本古来から連続と続く神道の考えを無視して設計することは考えられない。自然は、人間に恵みを与える一方、猛威をふるう。

設計者は、「暮らしの豊かさ」は何かを自ら問い、その一つの答えとして「増やす事での豊かさ」と「減らす事での豊かさ」がある住宅に見出し、その意味を込めて「増減の家」と名付けた。その考えは、「内の部屋」と「外の部屋」に明確に表現されている。「増やす事での豊かさ」は、「内の部屋」で、トリプルガラス等を採用した高断熱・高気密(断熱等級6)で、屋根に6kwの太陽光パネルを載せたZEHのコントロールされた「内の部屋」である。一方、「減らす事での豊かさ」は、

「外の部屋」で、参道側に大きく屋根を伸ばし、室内の雰囲気が残る屋根下の自然の表情を謳歌できる半屋外のコントロールされない「外の部屋」である。参道との境界部分は、建設残土を活用しマウンドとし、植栽が参道側の緑と連続している。視線を制御する庭の起伏と垂れ下がるサッシで囲われた空間は、自然と人工物が程よく交じり合う心地よい空間である。また、内外を区切るサッシを開放すると「外の部屋」と「内の部屋」が一体化される。このコントロールされた「内の部屋」とコントロールされない「外の部屋」がクロスする住宅において、人にとっての「暮らしの豊かさ」の一つの答えがここに提示されている。

(鈴木 弘樹)



室内から屋外を見る



内外が連続した外リビング

(撮影全て:Yasu Kojima)